



# 高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行  
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224  
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1  
藤樹書院・良知館内  
電話・FAX 0740(32)4156  
<http://takashima-tojukai.com/>

## 「藤樹人間学塾での学び」

高島藤樹会理事 今城克啓



藤樹人間学塾へは、人間力を高めたり身を修めたりするための学び

びが必要だと思っている時にお誘いをいただいたご縁で、参加させていただくことになりました。

初参加は平成三十年四月でしたが、まず驚きだったのは、月一回の開催をその時点ですでに八十回も重ねて来られたということです。

このような学びというのは、知識として習得するというよりも、参加を重ねているうちに何となく体に染み込んできて、人間力を高める生き方をだんだんと「体認できる」ようになることなのです。

参加するたびに、テキストに加えて、時事問題や経済および経営などに関する充実した資料を毎回選んでご準備されることにも頭が下がり、コピー代だけで学ばせていただくことに恐縮してしまいました。

このような資料を活用しながら、藤樹先生の教えの実践と経済の活性化との結びつきを具体的に教えてい

ただくなど、新鮮な学びをいただいています。

理解についても、体認できるということについても、自分自身はまだまだ不十分な状態ではありますが、「中庸」と言われる次のような生き方の大切さに気付かせていただいています。それは、大宇宙が進化し続けていることに伴って人間も進化し続けた、人間として進化していく方向の生き方だということです。

- ・ 親孝行だけではなく、万物を慈しむ「孝」。
- ・ 愛情ホルモンを産む「利他」の精神。

- ・ 意（主観的なもの、恣意）、必（無理に押す）、固（固執）、我（自己中心の考え）の、四つを取り去る。
- ・ 中立ということではなくて、両者の共通する利益を見つけて一緒に実現する。

高島市はこのような教えが長年に渡って人々の暮らしに根付いている地域だと思えます。例えば、世界に誇る高島市の発酵文化の「酵」は、「酒」と「孝」の字が組み合わさっており、発酵文化は、自然の摂理に沿って万物を育てるという意味で、藤樹先生の「孝」の教えと重なるものであると塾長から教えていただき

ました。

一方で、世界的には、プーチン政権によるウクライナへの侵略戦争とともに、各国で非民主主義が台頭するなどの厳しい情勢にあると言えます。

世の中が衰退していく時は、「中庸」から離れる人を讃える傾向が強まると、人間学塾の教材に書かれてありました。



このように厳しい世界情勢の中だからこそ、「中庸」に沿った藤樹先生の教えや、藤樹先生の教えに重なる高島市そして日本の文化や産業の価値を再認識し、誇りを持って世界に発信していかなければならないと思えます。

藤樹人間学塾は令和四年十月に百三十回目を迎えます。お菓子を食べながらの楽しいフリーストーキングもあり、自分自身が人間として少しでも進化するためにも、高島市や日本の価値をもっと知るためにも、これから学んでいきたいと思えます。